

福田小学校の学年担任制について

(1) どのような制度か。

○「学年担任制」とは、どんな制度ですか。

学級担任制が学級を一人の担任が担当するのに対し、学年に関わる複数の教員が学年全体を担当する制度です。

○「教科担任制」との違いは何ですか。

教科担任制では、基本的に学級の担任が年間を通して存在し、教科によって担当者が入れ替わります。学年担任制は、教科担任制のさらなる推進に加え、朝の会・給食・清掃・帰りの会も、複数の教員が交代で指導に当たります。学年担任制にすることで、教科担任制のさらなる推進も可能になります。

○学年担任制では、どのように指導者(担当者)が代わっていくのですか。

年度当初は窓口となる学級担当の職員を置きますが、その後は児童の実態に合わせ、フレキシブルに交代していきます。

(2) なぜ導入するのか。

○なぜ、「学年担任制」が必要なのですか。

福田小では、大きく次の5点をメリットとして捉え、導入することとしました。

- ① 複数の教員による多面的・多角的な子供理解がされる。子供のよさや課題を多くの教員で見出し共有することで、子供への声掛けが増え、褒めたり刺激したりして伸ばすことができる。
- ② 教員が1年間で複数学級の担任となることから、数年後には元担任・元学級の子が多く存在する学校になる。多くの子供とつながり、関係のある教員が増えることで、その子や現担任のフォローアップが進み、子供、保護者、教員の安心につながる。このことは、本校の経営目標でもある「かかわりいっぱい 優しさいっぱい」にもつながる。
- ③ 指導の差をなくし均等化を図ることができ、どの学級でも同じ指導を保障することができる。
- ④ 子供にとっては困った時に相談できる先生や選択肢が増えるため、問題が深刻化する前に対応することができる。一方、だれが担任であろうとやることは変わらないので、子供の自律につながる。
- ⑤ 教員同士が連携することにより、教員一人一人の強みが発揮しやすくなるとともに、学級や人間関係の閉塞感を生まない。

○責任の所在が分からなくなるというデメリットがあるのではないですか。

学年担任制では、今まで一人の担任が全て負っていた責任を、学年職員がチームとして対応していくこととなります。責任の所在が分からなくなるというよりも、むしろ迅速かつ機動的な対応がしやすくなると思います。子供・保護者・教員が孤立しない、孤立させない、互いの困り感を相談し合い、一人一人のよさを活かし合うことのできるシステムが「学年担任制」なのです。

○長時間・長期間同じ子供を担当する固定担任制の方が児童理解は進むのではありませんか。

一人の教員の児童理解という面に限定してみれば、長時間・長期間子供とかかわることで児童理解が深まることは確かです。しかしながら、一人の主観に頼ると、どうしても見落としがけであったり十分深まらなかったりする場合があることも確かです。全ての子供を均等に理解する観点からは、複数の教員が多面的・多角的にかかわる方が理解は進むと考えます。

一方、低学年の子供にとっては、限定された強いつながりや信頼関係のもとでより効果的な指導が行われるものであると認識しており、学級担任を固定した方が教育効果は大きいので

ではないかと考えます。そのため、福田小では1～4年生においては今まで通り学級担任制とします。そして、5・6年生のみ学年担任制とするとともに、教科担任制を今年度以上に推進していきます。3・4年生においても、可能な範囲で教科担任制を推進し、子供の発達段階に応じた指導体制とします。

(3) 保護者はどのようにかかわればよいか。

○質問や連絡、子供のことで相談をしたいときは、どの先生に連絡をすればよいですか。

質問や連絡がある場合には、電話や来校時に「〇年の先生をお願いします」と声をかけていただければ、学年のいずれかの職員が対応します。連絡帳の場合は、その学級を担当した教員が責任をもって対応します。

また、お子さんのことで相談したい場合、当日の担当者に限らず、相談しやすい教員を指名してくださって構いません。

○個人面談はどの先生が担当するのですか。

個人面談は、学年担当の職員と行います。場合によっては、面談の際に複数の学年担当者が同席することもありますので、あらかじめ御了承ください。

また、希望があれば相談しやすい教員との面談も可能です。希望される場合は、学校まで御連絡ください。

○提出物の未提出やけがの連絡等、今まで担任から受けていた連絡は、どの先生がするのですか。

原則として、その日(期間)学級を担当する職員が家庭へ連絡を入れます。

(4) 学年間の分担はどのようにしていくのか。

○子供同士のトラブルに対しては、どの先生が指導にあたるのですか。

目の前で発生したトラブルに対しては、そのトラブルを発見した教員が指導にあたります。起きた出来事に関しては学年の職員間で情報共有し、状況によっては学年の全職員で対応することもあります。

○宿題のチェックはどの教員が行うのですか。

家庭学習については、その日(期間)に学級を担当した職員が見ることもあれば、他の職員が見ることもあります。宿題の取組についても、複数の職員で見取り、指導していきます。

○これまで担任が担ってきた教科等の評価は、どの先生が行うのですか。

各教科の評価については、その教科担当が評価をしていきます。今まで以上に教科担任制が進むことにより、例えば学年全学級の国語はA先生がもつといたことが可能になります。行動の表れについては、複数の教員による多面的・多角的な見取りによって評価していきます。

○卒業式の呼名はどの先生が行うのですか。

呼名については学年職員が分担をして実施することになりますが、分担の仕方については、担当の意向や児童の思いを大切にしていきます。「学年担任制」だからこうでなければならないということではなく、子供にとってどうなのか、1年間学年担当を務めた教員の思いとしてはどうなのか、「話し合い」「合意形成」を図っていくことこそ、学年担任制の重要なポイントであると考えています。

※これ以外にも気になる点や質問等ございましたら、担当(教頭)まで御連絡下さい。